

東海4県で実施した実践講座の成果と課題については、各実践講座の準備会における「ふりかえり会」と個人の報告書から成果と課題と思われるものを抜粋して示しました。

## (1) 愛知県実践講座

### ◆ 成果

- 指導者研修受講者がファシリテーターになって実践講座を行うという目的は達成できた。
- 多くの参加者の満足度は高かった。開発教育（国際理解教育）に取り組むきっかけの一つになった。
- ファシリテーターの個性がそれぞれ出ているのがよかった。
- 本企画に参加した者の有志らが、国際理解教育研究会（仮称）を発足させ、今後の国際理解教育分野の研究およびネットワークを浸透させていく予定となった。
- 研修ごとに完結するのではなく、参加者自身が次回の研修のプログラム作りから関わっていくという企画は素晴らしいかった。
- みんなでプログラムを上げるという過程を通して、自分の中でのワークショップのつくり方に対する理解度は深まっていった。
- 練り上げてつくったプログラムであったので、全体的にはまとまりのある講習会になったと思う。

### ◆ 課題

- 打合せに時間がかりすぎた。
- あくまでもJICA中心の事業であるという認識を一部の方にもたれてしまった。
- JICA内のスタンスを含め、誰が中心で、どのようにすすめていくのかの共有をしなければならなかった。
- JICAとしての限界を感じた＝1) 開発教育に取り組み始めたばかりである、2) JICA職員、推進員（最高3年間）の任期が短い、3) 教育委員会とのつながりがまだ薄いetc。
- 教員の参加者がすくなかったのが残念だが、それはそれで今後の課題。
- おみやげ（資料）を渡す、ネットワークを紹介する、という当初の予定が、「後半は時間がない」という理由で大幅カットになった。
- この内容が1行でもいいから新聞やテレビに・・・。
- ①全体の流れを『とりまとめる』役割の必要性、②プログラム設定上の課題（アクティビティ設定の意味や他の手法の紹介を含めたプログラムに）、③『ねらい』を明確に（アクティビティを盛り込み過ぎ）、④ネットワーク構築のための取り組み、⑤参加者への配慮。
- 外部に発信するために必要な経験や最低限のスキルを私たちが事前に培い合う必要あり。
- 開発教育・国際理解教育のリソースの紹介にもう少し時間をかけてもよかった。
- 時間の流れが細かく記載された進行表があるとよかった。
- 世界と地域の問題の共通点と異なる点を考えるセクション以降は時間が足りなかった。特色をもった様々な意見が出ていただけに惜しい。プログラムをつくる段階で多少欲張りすぎた。
- ひとつの素材を使って、目的別によってたくさんのアクティビティが考えられるということももう少し紹介できたらよかった。

## (2) 岐阜県実践講座

### ◆ 成果

- 2名の教員のファシリテーターと打ち合わせ、電話やメールでのやりとりで、コーヒーについての予備知識を学習する等意欲的な取り組みが行うことが出来た。
- 参加者については昨年よりは広範囲に呼びかけを行ったこと、またこの2年間で出前講座を通して県内の教育現場でJICAが認知されてきた成果が功を相して今回は思いがけず実施日の2週間前で既に定員40名を超える申込みが入った。地道に実践を積み上げてきた成果と参加者の大半が貿易ゲームのアクティビティに興味を示したことが要因となり、様々な立場にいる人たちから参加してもらえることが出来た。
- 実践講座は、ファシリテーターが出来る限りの力を発揮し、和やかな場内の雰囲気にも包まれながら楽しく進行することが出来た。
- 参加者の方たちも協力的に積極的に学ぼうとする姿勢や発言が見られ、参加者にとって有意義な時間となった手応えがあった。

### ◆ 課題

- まだまだ分かりづらい進行部分があったり、テンポよく貿易ゲームが進められずタイムスケジュールが大幅に狂い、後半のワークショップの時間が30分削られ、予定していた内容を急ぎ凝縮して行うことになってしまった。
- 打ち合わせの回数が少なく、十分な準備ができなかった。
- 岐阜県内に参加型授業を実施している学校がまだ余りにも少なく、ファシリテーターという言葉すら認知度が低い状況で、ファシリテーターができる教師が育成されていない。技術に走りすぎても良くないがファシリテーターを務めることができる教師が増えていくことが国際理解教育の内容を高めていく為に重要であることは間違いないと思う。学ぶ機会を提供していく必要がある。

## (3) 三重県実践講座

### ◆ 成果

- 神戸小学校で実践された4時間の授業の流れを体験したことによって、学校における国際理解教育の具体的なイメージや即、自身も実践できるアイデアを得てもらうことができた。
- ICANのワークショップを実際に体験することによって、国際理解教育の楽しさ、有効性を実感してもらうことができた。
- 全体を通して参加者に国際理解教育に積極的に取り組んでいきたいと思ってもらうことができた。
- 意見交換や後日郵送した参加者リストによって、参加者同士あるいは参加者・講師・主催者間で情報交換を行い、ネットワークを築く機会を与えることができた。
- 県内の国際理解教育に活用できるスキームとリソース(JICA他)を広報し、特にJICAの国際協力出前講座の実演を通して、JICAの開発教育支援事業を広報することができた。
- 県内各国際交流団体にメールを通じて案内やアンケートを送付したことによって、JICAの開発教育支援事業について知ってもらうことができた。また、県内各団体に国際理解教育に関わっている団体を把握することができた。
- 開発教育指導者研修受講者がファシリテーターをする機会を提供することができた。
- 外部の講師や団体と打合せを重ね、ともに内容を作り上げることによって、よりよい内容の講座を行うことができた。他団体や個人との協働への一歩が踏み出せた。

- いいたいことの20分の1位しか伝えられなかったが、限られた時間内で感じてもらったのは良かった。
- はじめて5月に開発教育に触れた自分が今日この場にいることに驚いている。参加者にちょっとでも気づきがあったのではと思う。
- JICAの研修ではじめて開発教育に出会った。その自分が少なからず、実施者として協力できたことで、達成感がある。
- 自分たちが参加して、楽しんで取り組めたのが良かった。自分たちにできること考えられたのでは。
- 神戸小学校でじっくりと授業に取り組めたので、良かった。かわいそうな子どもたちに愛の手をとという部分を越えたかった。ロールプレイの中で食べていくことの意味と学校の位置づけを明確にしていくともっと意味があったと思う。
- 前回の学校の実演を改良して、今日は学校を卒業する意味を盛り込めたのが良かった。
- 今日は速いテンポで進んだにもかかわらず、注意をひきつけ、参加者の理解を深めながらできて良かった。
- 今日は、テクニックを伝えなかったのも、そういう意味でねらいは達成できた。今回の協力者の皆様が自主的に待ち合わせ時間より前に来て、手伝ってくれた姿勢に感動した。
- みんなができるだけのことをやった感じで、参加者と講師側・主催者側に一体感があった。

#### ◆ 課題

- 講師の先生がご自分のネットワークを生かして広報したこと、過去に出前講座を利用してくれた学校、先生へ直接ファックスを送ったこと、国際交流協会がもつ県内各国際交流団体アドレスリストにメールで案内を送付したこと、JICAメールマガジンやJICA中部のイベント案内に掲載してもらったことなどによって、前回よりも多くの参加者を得ることができた。が、学校でチラシが回覧されているのを見て参加した、という先生はほとんどおらず、依然として学校や先生への広報方法には課題が残る。
- 一番重要なのはふりかえり・まとめである。ある程度、ねらいから自分たちで学びを推測できる大人の方たちの中で行う時には、説明を多く設けるより、参加者からの意見を多く出してもらうほうが効果的だと感じた。小学校の場合は、ゲームをすることで楽しさだけの印象が残ってしまいがちなので、肝心の学ぶポイントを明確にしないとゲームのねらいが達成できないという課題がある。
- 短い時間に盛り沢山の内容を詰めこみすぎたため、ばたばたした。参加者が内容を消化しきれなかった可能性もあり、時間と内容を検討する必要がある。
- NGOとして関わっているが、今後は今回神戸小学校と一緒に取り組んだように、学校で教える、どう伝わるのかももっと勉強していきたい。
- 思いを伝えるのか、テクニック論を伝えたいのか軸にばらつきがあった。参加者によって、理解に差が出ると感じた。
- 三重県は核になるような学校があると感じる。コアの学校を軸に地道に地域に広めるといいと考える。
- 口で理想を唱えるのは簡単だが、地域で地道に活動を広げ、人材を育成していくのは簡単なことではない。JICAとして微力ではあるが、人が集い、学びあえる場を、この講座の参加者のフォローを地道にできるようにしていきたい。
- 岐阜も三重県に負けないよう頑張りたい。色々な人が関わられるような集まりにしたい。
- 自分の役目を今回まっとうできた。どンドン次の人が出てきて三重県を盛り上げて欲しい。自分も学校で頑張っていきたい。

## (4) 静岡県実践講座

### ◆ 成果

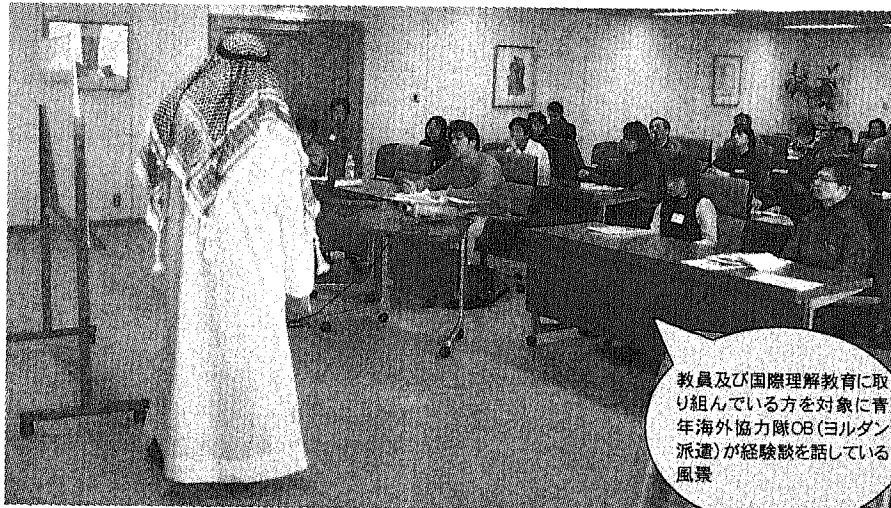
- ワークショップの部分では、参加者の力が引き出されて最終的にはこちらが考えていた以上の作成物ができあがり、「参加型」の学びあい、というもののすばらしさを改めて感じた。
- アイスブレイキングよかった→授業でも使える。
- ワークショップの最後の発表はおもしろかった。
- グループ内構成がよかった。留学生、男女混合で協働作業によって仲良くなれた。
- 「交流」というテーマがレベルの高い人も初心者でも入りやすかった。奥が深く、深めようとするほどどんどん深まるテーマであった。
- 楽しんでファシリテーターをすることができた。
- 参加希望者が多く、関心が高まっていることに驚いた。
- 静岡県実践講座準備会の5名のチームワークがとてもよかった。フォローがとてもすばらしい。
- 市民グループの方の参加がよかった。
- スタッフの協力と協会共催によりたいへん有意義な講座になった。
- とてもよい講座となったので今後もつなげていかなければならない。希望も見えてきた。
- 「交流辞典」がとてもよいものができてよかった。他の機会にもぜひやってみたい。

### ◆ 課題

- 「国際理解教育について」は、短い時間の中で口頭による説明のみだったのでよかったかどうか……。本当に大きなつかみとしては効果が多少あったようにも思う。このテーマだけでワークショップをしっかり組める内容なだけに、場合によってはアクティビティを交えたものにしてもよかった。
- 進め方については、少し強引な部分もあったため、内容についてはやはり再検討が必要。
- ひとつひとつに目的を説明してほしかった（例：名前をはじめに名乗らない理由、アイスブレイキングの後に「仲良くなれましたね」の一言、など）。

# 開発教育指導者研修

～つながりに気づき、つながりを築くファンリテーター～



教員及び国際理解教育に取り組んでいる方を対象に青年海外協力隊OB(ヨルダン派遣)が経験談を話している風景

昨年4月より小・中学校に、本年度より高校にも「総合的な学習の時間」が導入され、前にもまして開発教育、国際理解教育への関心が高まっています。そのような中、開発教育、国際理解教育に関心を持つ教員、自治体職員等を対象に、NIED・国際理解教育センターの山中令子氏を講師に迎え、開発教育、国際理解教育の扱うテーマ、ワークショップ・参加型の方法論、プログラム作りのノウハウ、実演を学んでもらうことにより、開発教育、国際理解教育の取り組みへの意識を高め、実際の現場で活かしてもらうことを目的として本プログラムを企画しました。開発教育、国際理解教育に関心のある先生、自治体職員等の方々の多数のご参加をお待ちしています。

主催：JICA 中部国際センター

協力：NIED・国際理解教育センター

講師：NIED・国際理解教育センター 山中 令子 氏

後援：静岡県教育委員会、愛知県教育委員会、岐阜県教育委員会、

三重県教育委員会、名古屋市教育委員会（全て予定）

日程：第1回・・・平成15年 5月31日（土）～平成15年 6月 1日（日）

第2回・・・平成15年 7月 5日（土）～平成15年 7月 6日（日）

第3回・・・平成15年 9月 6日（土）～平成15年 9月 7日（日）

場所：JICA 中部国際センター（地下鉄東山線一社駅徒歩10分）

対象：小・中・高校教員及び教育委員会関係者20名、NGO・NPO、国際交流協会等自治体、青年海外協力隊OB/OG等15名。

いずれも開発教育及び国際理解教育に積極的に取り組んでいる方（先着順）

※この研修は中級者向けです。入門編の「開発教育実践講座」は今秋以降東海4県下で各1回行われます。

参加費用：無料（宿泊は当センター又は付近の宿泊施設を当方負担で確保します。但し、交通費は参加者負担となります。）

▲平成15年度開発教育指導者研修参加者募集チラシ

# 指導者 研修

- Ⅲ. 第1回 開発教育指導者研修の記録
- Ⅳ. 第2回 開発教育指導者研修の記録
- Ⅴ. 第3回 開発教育指導者研修の記録



## III. 第1回 開発教育指導者研修の記録

第1回の研修の概要を示すとともに、以降、「プログラム」の流れに沿って、研修の詳細とその成果の記録を示しました。

### 第1回研修の概要

#### 1 「WHATs 開発教育・国際理解教育?自己理解—相互理解—共通理解」

##### ◆ 日時・場所

- 日 時：1日目 平成15年5月31日(土) 13時～18時  
2日目 平成15年6月1日(日) 9時30分～12時30分
- 場 所：JICA中部 講堂

##### ◆ 参加者・ファシリテーター

- 参加者：54人(教員・教育委員会25人、NGO・NPO2人、  
自治体・国際交流協会7人、JICA関係者18人、学生・一般2人)
- ファシリテーター：NIED・国際理解教育センター 代表 山中令子氏

##### ◆ ねらい

- コミュニケーションとは何かを理解し、何のためのコミュニケーションかを共有確認する
- 今までの自分のコミュニケーションをふり返りながら、相互理解を進め信頼の人間関係を築くためには何が大切なのか、コミュニケーションスキルという視点から具体的に考える
- 社会と教育の過去をふりかえり、現在を確認し、望む未来の姿を共有する
- 望む共通の未来を実現するために、国際理解教育・開発教育を通して私たちのできること/したいことを具体的に考え持ち帰る(教育の共通基盤づくり)

##### ◆ プログラム

###### ★セッション1：私をふりかえり 他者から学ぶ

- 0 所長あいさつ
- 1 研修全体のねらいと第1回のねらいの説明
- 2 アイスブレイキング 知り合おう!
- 3 「わたし」との対話 「あなた」との対話 10の私とインタビューゲーム

###### ★セッション2：コミュニケーションをふりかえる

- 1 ガリバー旅行記続編「コミュニケーションのない国へ」
- 2 コミュニケーションは何のため?
- 3 コミュニケーションについてわかったことをまとめよう

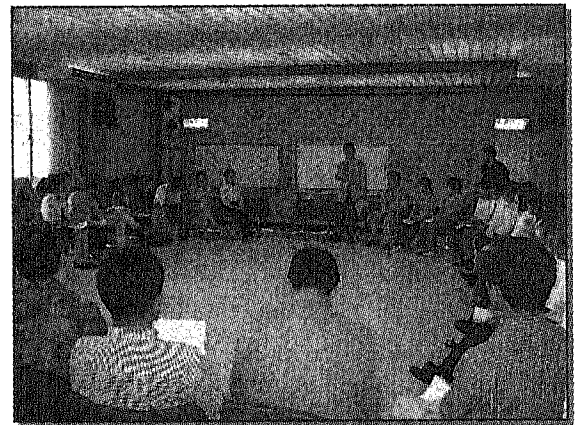
###### ★セッション3：社会をふりかえる 教育をふりかえる

- 0 JICA TIME「気づく」
- 1 考えるための準備体操と研修のねらいの確認
- 2 年表づくり 社会と教育と自分を振り返る
- 3 未来を考える 20年後の未来～地域・地球はどうなっているといいのか?
- 4 20年後の望む未来を実現するために大切だと思うこと!



## (1) 所長あいさつ(要点)

- 参加者は、教育委員会、小学校、中学校、高等学校、NGO、交流団体、協力隊のOB会、専門家のOB会、市民団体リーダーなど多種多様。県外からも。教育関係者：市民団体関係者=2:1というよいバランス。
- 数年来開発教育指導者研修を開催しているが、1泊2日の3回シリーズという長時間の企画は今年が初めて。
- 一人ひとりの心の中に、何か変わっていくのではないかという気持ちも期待している。
- 最近のJICAの動き。3月に専門家OBの集まり、4月シニアボランティア(40~69歳までの派遣)、東海4県60人ぐらいのOB会であるコスモス会が、地域で何かできないかと言い出した。
- 名古屋JICA会に開発教育の研究グループができた。岐阜の協力隊のJICA国際協力出前講座メンバーで開発教育の研究会がスタートした。いろんなところで今開発教育が議論されている。小、中、高で総合学習が始まり、国際理解教育・開発教育のニーズが増大している。JICAとしても社会の要請に応えたいと思って企画している。
- NIED・国際理解教育センターや参加者の皆さんのような実践をしているリーダーが一緒に集まって、共に考え、学び、そして社会の要請に応えていくということがこの会合の趣旨、ねらいだと思う。
- この会合を通じて、子どもたちと共に、楽しみ、私たち自身が成長できるようなセミナーをすごしたいと思う。私も生徒の一人として参加するので、同期生ということでよろしく。



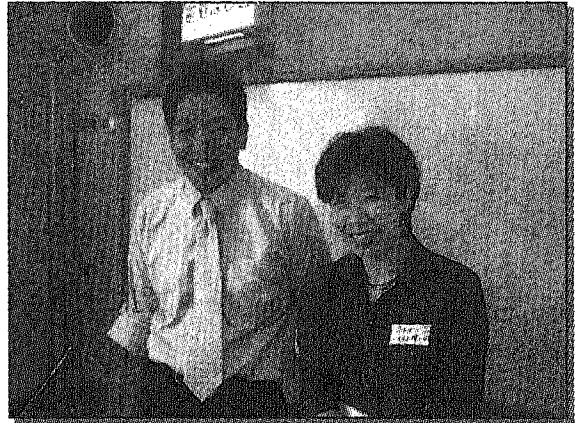
▲ はじめは輪になって

## (2) 研修全体のねらいと第1回のねらいの説明

## ◆ 研修全体のねらい(ファシリテーター山中から)

- 地域の中で国際理解教育・開発教育指導者を育てていくためには、どうしたらよいのか…、またどのような機会があれば、担い手がスキルアップしていくことが可能か、について、JICA 中部職員と一緒にじっくり話しあってきた。
- そして、年間を通して次の3段階の機会を提供してみよう、という結論に達し、それが今回実現した。その3段階とは、「初心者向け研修」、「中級者(国際理解教育・開発教育のなんたるかを少し知っていて、可能性も感じ、もう少し中身を知りたい人)向け研修」、「ファシリテーター研修(かなり知っていて、自分でも取り組むために、プログラムやファシリテーターセッションについてのスキルをさらに身に付けたいと思っている人)」。

- 開発指導者研修は、ファシリテーター研修の位置づけであり、本研修の参加者が、次には初心者向けのワークショップのプログラムを作り、ファシリテーターをしてみる、という長期的ビジョンを持っており、循環の中で、裾野を広げながら徐々に担い手が増え、経験が深まることを期待している。



▲ ファシリテーター山中氏と司会の磯貝氏

#### ◆ 第1回のねらいの確認

- 今日の第1回は、開発教育とは何かを説明することはしない。
- 昨年した研修の記録に、国際理解教育と開発教育の違いについて書いてあるのでそちらを見て頂き、今年は、どんな力を一人ひとりに育もうとしているのか？を中心に考える。
- 参加と対話を通して共通の未来を描くために、どんな力を付けていけばよいかを考えていきたい。

### (3) アイスブレイキング 知り合おう！

#### ◆ 呼ばれたい名前・名刺で自己紹介

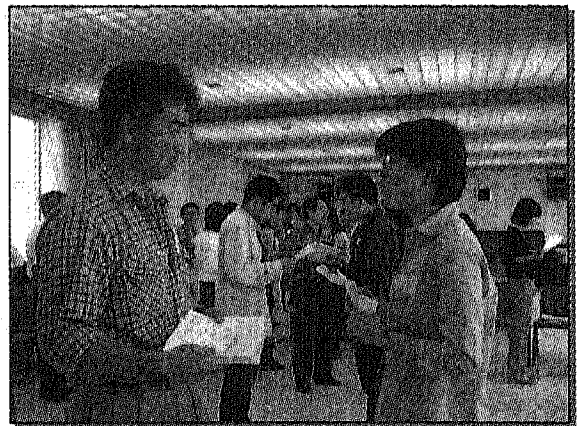
- どこから来た何をしている人かということから離れて一人ひとり対等な参加者として始めるため、名刺シールに今日明日、呼ばれたい名前を書く。
- 7分間で、上記の名刺づくりと、次の4点を書いた名刺（A4版裏紙）づくりを行う。

- ① 私は何をしている人か（職業でなくてもよい、知ってもらいたいこと）
- ② 私のウリを3つ（自分自身の好きなおところ、得意なことなど）
- ③ 今日私がここに来た理由（どんなことを考えたくて、はっきりさせたくて、知りたくて）
- ④ 私が今日明日この場・皆さんに貢献できること1つ

- 15分間、自由に歩き回って自己紹介しあう。
- どんな人がいたかなと一人ぐらい特徴と何人と話したかを覚えておく。
- 書いた紙を交換して読み合うのではなく、言葉で対話して自己紹介をする。

#### ◆ 自分の知り合った人を教えてあげよう

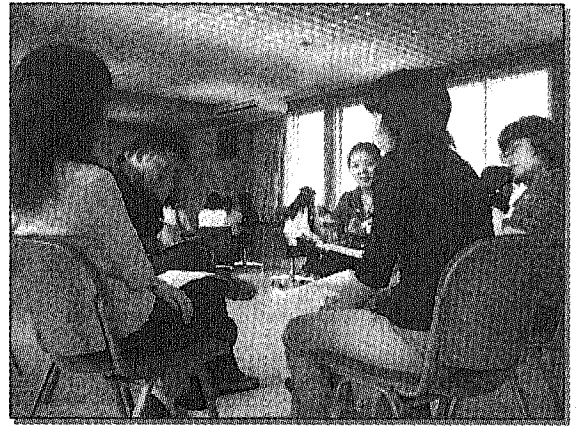
- 自分の知り合った人1人について、こんな人がいたよと、を話してもらって全体で共有する。
- 魔法のマイクで（渡された人だけがしゃべっていい、次にしゃべる人の指名権のあるマイク）。



▲ 名刺で自己紹介

## ◆ ここまで気付いたことの小グループでの共有

- 5人グループになって、ここまでの作業でわかったこと、気付いたこと、感じたことをグループ内で共有する。
- 小グループになったら、まずは簡単な自己紹介から。自分のウリを「〇〇な△△です」と紹介しあう。
- 誕生日で1月に一番近い人から時計回りで話す。



▲ 小グループでの共有

## ◆ グループ内の共有を全体で共有

- グループ単位で、前のグループから出たことは省いて順に発表する。

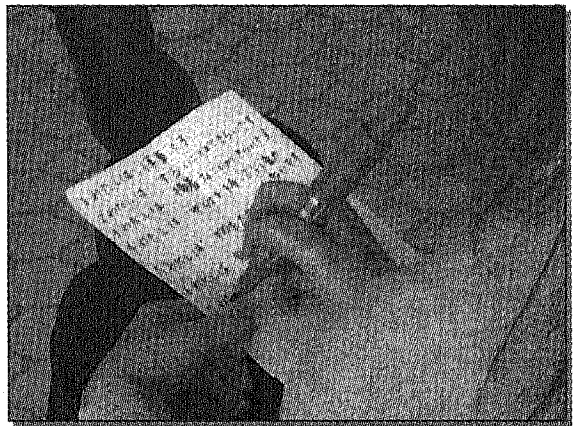
- 同じ思いを持っている、話すネタが同じ、紙に書いたので、話しやすかった。
- いろんなところに行った人が多い。
- みんなが伝えようと一生懸命。
- まとめがうまい。
- みんなが話を聞いてくれる～他のワークショップは聴いていない人が多いのに～。
- 高校の時の担任の先生がいたのでびっくりした。
- 人に自分のことを伝えるのが難しい、自分を表現することを普段していない、自分のウリを積極的に表現することが少ない。
- 職業から離れたくて来たけど、結局職業につながってしまって重さを感じた。
- この方法が日本人にとって、紹介しあうのがよい。外国ではこんな設定しなくても大丈夫。
- 職場など知っている人どうして集まるので、シゴトの話が出てしまう。
- 日本人には時間がないのはシゴトがすべてになっている。
- 外国人は人生を楽しんでいる、早く家に帰る。
- 時間をたつのを忘れるくらい楽しかった。
- 日常生活に関係ないので、わくわくする。
- どういう自分を演ずるということを考えて、改めて自分を考えた。
- いいかっこしている自分に気付いた。
- 自己紹介では自分の職業をはっきり言わなかった。職業で人を判断してしまいがちの普段なので、職業を知らない方が本当のコミュニケーションができる。
- 同じく年齢を聞くと、高校生だから、大学生だからという固定概念が先走ってしまいがち。
- 自分のウリを書くのが困った。
- 目と目を合わせるのが照れる。
- 日本人の特徴で自己PRが下手だと気付いた。
- もっと自己顕示欲をしめすべきだと話し合った。
- 一人一人違うとわかっていて、対話を通すと再確認した。
- ゼスチャー込みでする人もいた。
- 順番に聴いていってしまった。
- 名札を決めるときに本名にしようかおもしろいものにしようか葛藤したという話題。
- 本名じゃないと自由に言える。
- 自分のことを出すのは難しい。
- 初めてじゃない人と交流して、人の新たな一面を発見。
- いろんな人がいて二面性を持っている。
- ウリを考えるのは大変。人と握手をするのは難しいが、これはいいゲームと感じた

- 自己理解→他者理解→共通理解。
- より広い世界に関心を持ち理解する＝身近な人に関心を持つ＝自分自身に対する理解。
- いきなり世界の問題を解決することから入るのもよし、まず自分とその回りからという視点もよし。
- 参加型＝自分をふり返りながら（自分自身と話をする）他者から学ぶ。
- 一人の気づきをみんなの気づきに…というのがお互いから学び合うワークショップの意義。

#### (4) 「わたし」との対話 「あなた」との対話 10の私とインタビューゲーム

##### ◆ 10の私とインタビューゲーム

- 対話って？コミュニケーションって？ 自分と対話してみる。小さな集団で他者と対話してみる。
- 私はこんな人！あなたはどんな人？ もしも相手に「私」の事をもう少しよく知ってほしい…と思ったら、あなたはどんな「私」を伝えたい？ 「私は…」で始まる文章を10コ書き出す。
- これまで自己紹介しなかった人、グループにならなかつた人と2人ペアになり、それぞれ落ち着ける場所へ移動し、「10の私」をお互いに伝え合う。
- 聞いたことを基にして、さらに相手を知るため10分間ずつのインタビューを次のルールで行う。

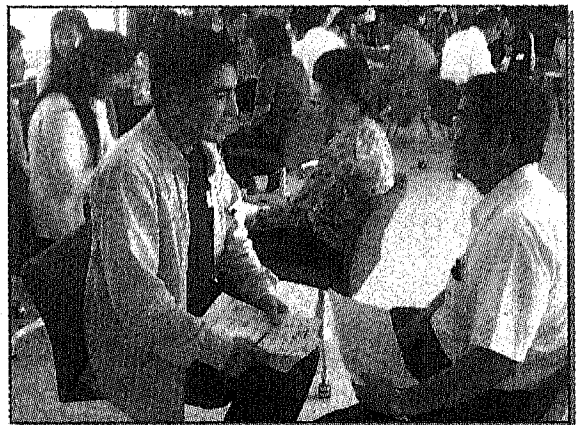


▲ 10の私を考える

##### インタビューゲームのルール

- 1) 何を聞いてもかまわない
- 2) 答えたくないことは答えなくてもかまわない
- 3) 聞かれた事以外を答えてもかまわない
- 4) YES/NOで答えられる紋切り型の質問ではなく話題が広がるインタビューを！

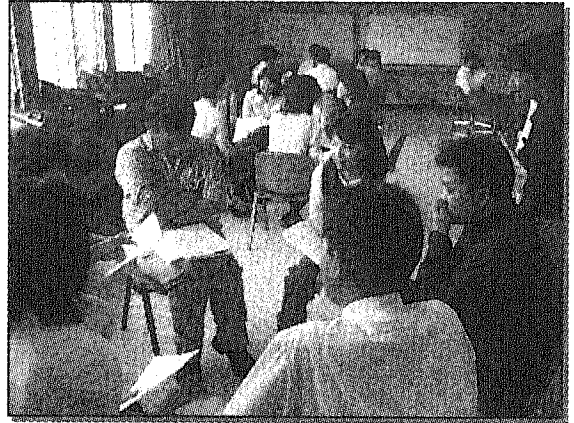
- インタビューゲームが終わったら、わかった相手像を文章にしてみる（100字くらい）。
- 「文章にした相手像」を本人に渡し、合っているか見て、明らかに間違っている事のみ、赤入れをせらう。
- お互い伝え合うところから、ここまでを30分間で終わるように時間管理して進める。



▲ インタビューゲーム

## ◆ インタビューゲームの結果を基に他己紹介

- ペアが3つ集まって、6人グループにする。
- グループ内で、赤入れが終わった相手像を1人30秒ぐらいで、他己紹介（本人ではなくもう一人の相手が紹介）しあう（書いたこと以上のことは伝える必要はない）。
- 全員の他己紹介が終わったら、グループ内で、ここまでの感想を述べ合う。



▲ グループで他己紹介

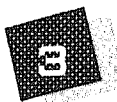
## ◆ 最初の円形に戻り全体共有

- 最初の大きな円形に戻り、一連の「10の私とインタビューゲーム」をしてみて、気づいたことや感想を述べ合い、全体共有を図る。

- 6人の中で共通点は、国際交流に関心ある、人生楽しくなくちゃということ。
- 自分のいいところを話すのが自分を素直に出せないという「武士はくわねど高楊枝」のような歴史的なものがある。
- 人から言われて初めて消化してくれたんだと自分に自信が持てる。
- いい機会を与えてもらった。
- 一番難しかったのが、自分のことを考えること。私は10個考えるのが苦しい。
- 伝えたいことと隠しておきたいことのが加減がわからない。
- グループの時に、2人ずつのペアが共感できる人どうして不思議だった。
- 楽しい時間を持てた。
- 自分自身の事を知るという機会があまりないので、自分が持っている自分の評価がよくわからなくてとまどう。
- 自分を良く見せようという所があることがわかった。

## ★ ファシリテーターより★

- コミュニケーションの基本は、「伝える」「聞く」「考える」の3要素。
- 練習すれば誰でも高まる、誰でも身につけることができる能力。
- コミュニケーションするためには、伝えたいことがないとできない。伝える・聴くのキャッチボールがコミュニケーションを広げて深める。
- どこまで伝えるか決めるのは自分では！？
- 相互理解をし、共通理解を作りだすためには、一方向の伝達ではなく、伝えたことは受け取ってもらえたか、自分も相手が伝えたかったことを受け取れたか、確認したり共有したりすることが大切。
- 何のためにコミュニケーションをするんだろう？ということの後半戦で考えたい。



## セッション2：コミュニケーションをふりかえる

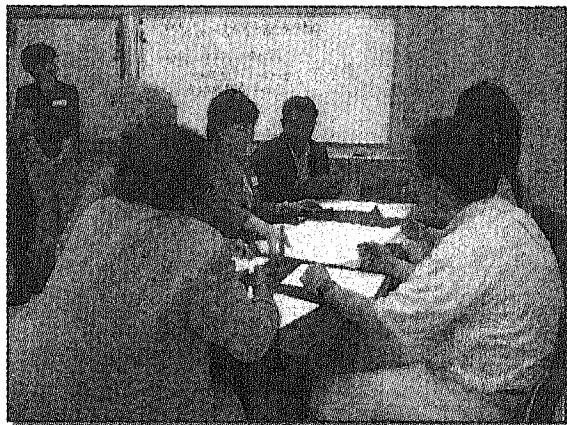
### (1) ガリバー旅行記続編「コミュニケーションのない国へ」

#### ◆ グループメンバーの入れ替えとセッション2のねらいの説明

- じゃんけんして勝った2人、負けた2人を選び、勝った2人は時計回りで机を移動、負けた2人は反時計回りで机を移動して、グループメンバーの入れ替えを行う。
- 新しいグループで、自己紹介。名前に自分のウリを付けて、「〇〇な△△です」と。
- セッション2では、対話とは何か？について考える。地域や地球の課題を解決するために、どう「参加と対話」を確保するかを考える。

#### ◆ コミュニケーションのない世界 ガリバー旅行記—続編—

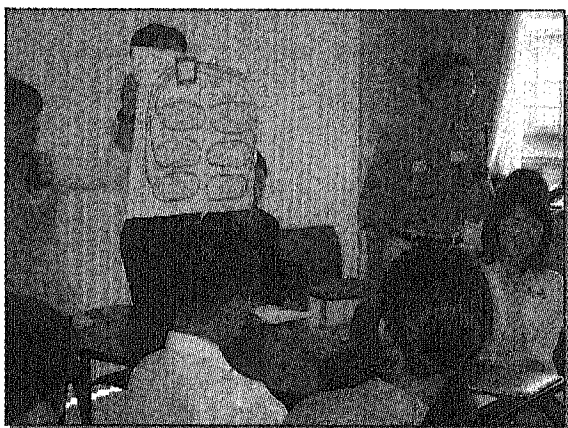
- ガリバーは、最後の旅行の続編として「コミュニケーションのない国」に行った。その国で起こったこと、感じたことを続編の旅行記として、各グループで次の手順で話し合う。そのうえで、コミュニケーションがないということはどういうことか考える。
- ①まずコミュニケーションがない国のポイントを模造紙に書き出す。
- ②そのポイントをもとに、3分くらいの話にまとめて子どもに語って聞かせるような旅行記をまとめ、全体に発表してもらう。
- ③その際、帰ってきたガリバーの「ひと言」を付け加える。



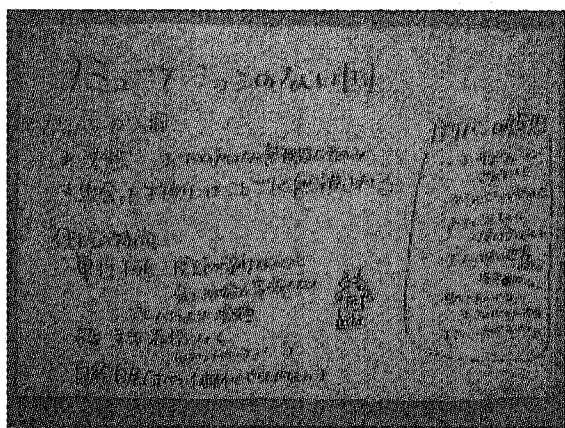
▲ ガリバー旅行記—続編—を考える

#### ◆ ガリバー旅行記—続編—の発表

- 各グループで話し合った「コミュニケーションのない国」のポイントと、ガリバーのひと言を発表し、キーワードを板書する。



▲ ガリバー旅行記—続編—の発表



▲ まとめた模造紙例

### ＜発表の例＞

- ポイント：外部の音を聞くも会話は聞こえない／目や耳はあるが／殺戮と力づくのバイオレンス／自給自足／身を守るために自分の細胞から作った甲羅のようなものを
- ガリバーのひと言：「むっちゃ寂しかった」
- ポイント：みんな全く聞かないからコミュニケーションがなりたたない／恥ずかしいので暗い夜になると騒がしく、明るい昼になると静かになる…／ある時、大地震が起きた！／お昼だったのでみんな恥ずかしくて聞けなかった
- ガリバーのひと言：「とても寂しい国だなあ」
- ポイント：性別がない／ガリバーがやってきて…誰も答えないのでなんとかしようとして奮闘する／何とかコミュニケーションを取らせる／初めてしゃべろうとする人が出てきて、ついにしゃべる、コミュニケーション…／ルールが出来たでしょう
- ガリバーのひと言：「そんな国あったっけ？」



### ＜「コミュニケーションのない国」のキーワード＞

沈黙／個で完結／殺戮／自己増殖／単体／関わらない／伝えない（伝えたくても）／聴かない（聴きたくても）／助けがない／求めない／テリトリーからでない／無視／カプセルにひとりひとり個別な生／安楽死のような生／ある意味の幸せ／人とのつながりががない／機械に管理される／無表情／定住者がいない／知らん顔／無関心／コミュニケーションが生まれる／いっさいの応答がない／バラバラ／名前がない／言葉の暴力がない／支配被支配もない／笑顔／統一感／文化／成長／協力／愛／信頼／感動／発展／元気な子どもがない／本能のみ／子孫ができない／感情のない世界／機械のような人々

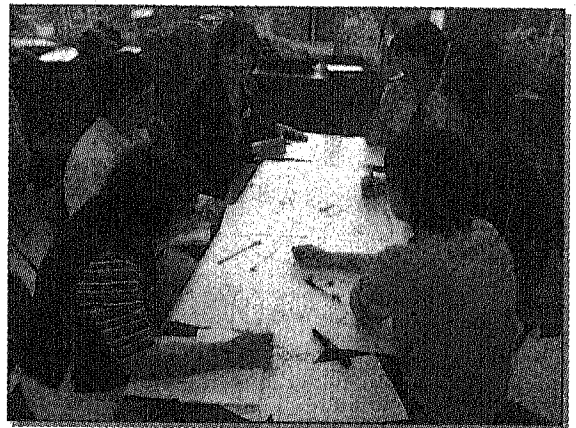
### ◆ グループ作業のコミュニケーションをふりかえろう！

- ここまでのグループ作業での各自のコミュニケーションを、次の視点でふりかえる。
  - ① 自分が言いたいことはメンバーに伝えることはできたか？
  - ② 人のアイデアを聴くことができたか？
  - ③ いろんな人の意見を聞きだそうとしていた人は誰か？
  - ④ グループの多様なアイデアをよくまとめようとした人は誰か？
  - ⑤ 最終的にできた物語が自分の満足したものか？

## (2) コミュニケーションは何のため？

### ◆ コミュニケーションを絵にする

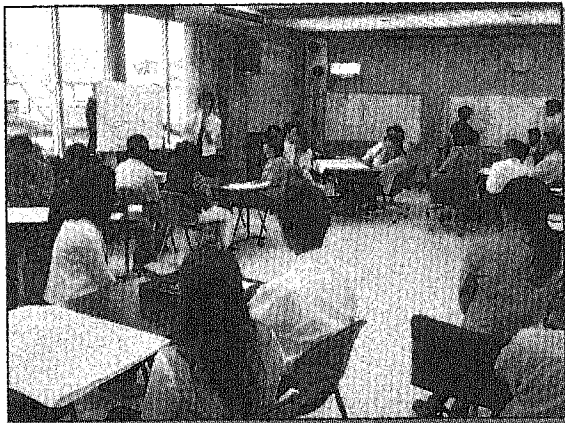
- 各自が持つ「コミュニケーション」のイメージや考えを、グループ内で十分に伝え合い、話し合っ一つ一つの絵にまとめる。



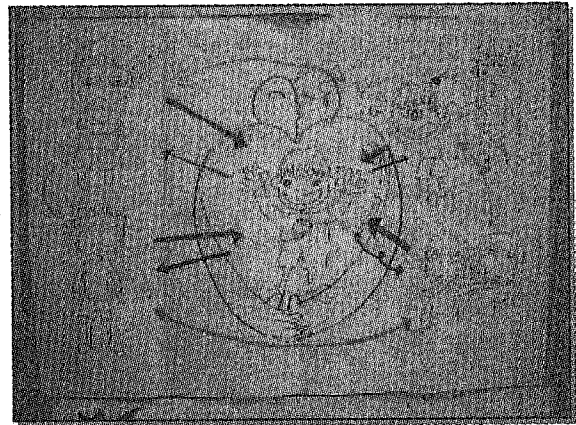
▲ コミュニケーションをグループで絵にする

## ◆ 発表

- 各グループで描き上げた「コミュニケーション」の絵を発表する。



▲ コミュニケーションの絵を発表



▲ 描いた構造紙例

### (3) コミュニケーションについてわかったことをまとめよう

#### ◆ わかったことのまとめと発表

- ここまでのコミュニケーションに関する作業を通して、わかったことをグループ内でまとめて発表する。

- ハートのキャッチボール/コミュニケーションは愛
- ひとりひとりが幸せに生きるために必要もの
- 聴く耳を持って相手を受け入れる/相手への関心が必要
- お互いの思っていることを受け入れあう
- 人だけではなく、様々なものと関わる
- 良い面もあれば使い方次第でデメリットもある
- 思ったことは口に出す、そして聴く/質問と応答
- 難しいけれど楽しい/楽しい発見がある
- ボディーランゲージも大切
- 双方向なので折り合いは難しい/我慢・歩み寄りも大切
- 自分を表現することが大切/適度な自己開示が必要
- 怒り悲しみを幸せ元気につなげるための支え合い・助け合い
- 個をつなげる・社会をつなげる道具
- 共同作業のプロセスが大切
- コミュニケーションの必要のない便利な社会になりすぎている
- 分かり合って共に生きていくことが必要
- 気持ちがないとできない
- 自分自身をしっかりみつめることが大事
- 英語でしか表現できないことが悲しい
- あうん+α
- 積極性が必要
- 癒しにつながる/共感/みんな手をつないで一つに
- 体のつながりと心のつながりと社会のつながり